



代々木果迺会  
四月定例公演

四月二十七日(金)

# 白楽天

午後六時半(開場午後五時半)  
於 代々木能舞台  
入場料 前売 四五〇〇円  
当日 五〇〇〇円  
学生 二〇〇〇円



笛 藤田 次郎  
小鼓 森澤 勇司  
大鼓 國川 純  
太鼓 助川 浩

シテ 小早川 修  
ツレ 小早川 泰輝  
ワキ 殿田 謙吉  
アイ 野村 万蔵



前場 唐の詩人白楽天は日本人の知恵を試し、もし愚かであったら笑いものにしよ  
うと企て、遥遥と海を渡り筑紫(九州)の  
海へ着いた。  
すると小船に魚翁と若者が現れる。

魚翁は、白楽天一行の日本へ来た目的を言  
い当て、歌問答を仕掛けた白楽天の詩に対  
して、和歌で対応し退ける。

そして日本では『生きとし生けるものごと  
に、歌を詠まぬものはなき物を...』を語  
り、このまま海上で待つならば青海に浮び  
つつ舞を見せよう...と言いつつ消える。

後場 波の鼓が響く中、住吉明神が現れ  
た。明神は『神の力ある限り日本は屈服し  
ない』と白楽天に告げる。

次々に出現した日本の神々や各諸神、八  
大竜王等の音楽と住吉明神の舞の手数  
は『神風』を巻き起こす。そして、白楽天一行  
を塵芥のように再び漢土まで吹き飛ばし  
てしまうのであった。



【主催 代々木果迺会】  
TEL 042-462-9350  
FAX 03-3370-2757  
E-Mail info@yoyoginoubutai.com

◆白楽天プレ・レクチャー開催 於 代々木能舞台  
4月22日(日)午後2時~ 1000円 詞章付き  
講師 小田 幸子(明治学院大学講師)  
案内人 浅見 慈一



代々木果迺会  
五月定例公演

五月二十五日(金)

午後六時半(開場午後五時半)

於 代々木能舞台

入場料	前売	四五〇〇円
	当日	五〇〇〇円
	学生	二〇〇〇円

大江定基は出家し寂昭法師と名を変えて入唐。やがて清涼山に至り、かの『石橋』を目前にする。

橋を渡れば、先は『文殊菩薩』の浄土であると、一人の童子が法師の前に現れた。

童子は、この『石橋』は修行した人間でも容易に渡れる橋ではない、ゆえに思いとどまれ、と法師を促す。

童子は、この場にて待つならば浄土の様子を見せてやろうと言いい残して姿を消した。(中入り)

獅子の登場である「乱序」が奏でられ、力強い序曲の後に静寂な太鼓と小鼓による「露の手」が続いて演奏される。そして再び、激しい「出の乱序」となり、文殊菩薩の使いである獅子が現れる。

獅子は牡丹の花に戯れ、互いに舞い遊び、『獅子王の勢い靡かぬ草木もなき時なれや万歳千秋と…』舞い納めて獅子の座に着いて終える。

獅子口(獅子の形をした能面)をつけた後シテの豪快な舞が見もの、囃子方の緊迫感あふれる秘曲が聞きものである。

獅子舞は世阿弥時代から舞事として成立していたが、『石橋』は江戸期に演出を含めて再興され徳川時代の色彩が濃い。

# 石橋

師資十二段之式

シテ 浅見 慈一  
ワキ 小早川 修  
アキ 則久 英志  
アイ 高澤 祐介

笛 一噌 隆之  
小鼓 古賀 裕己  
大鼓 亀井 広忠  
太鼓 梶谷 英樹

◆石橋プレ・レクチャー開催 於 代々木能舞台

5月13日(日)午後2時~(開場1時半)

1000円 詞章付き

講師 井上 愛(十文字女子短期大学非常勤講師)  
案内人 浅見 慈一

【主催 代々木果迺会】

TEL 042-462-9350

FAX 03-3370-2757

E-Mail info@yoyoginoubutai.com

